



Shizuoka Prefecture

静岡県医学修学研修資金ガイドブック 2023

Fujinokuni

Virtual Medical College

ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ

75大学1,518人が利用する
国内最大級の医学生向け奨学金

静岡県医学修学研修資金制度

「医師は社会のために存在します。」

医学教育のスペシャリスト
静岡県立総合病院 院長
／一般社団法人日本医学教育学会 理事長

小西 靖彦 先生



ふじのくに地域医療支援センター(静岡県)



ようこそ、 ふじのくにバーチャル メディカルカレッジへ

CONTENTS

- | | |
|---|---|
| 02 メッセージ | 11 静岡県医学修学研修資金制度 |
| 03 「医師は社会のために存在します。」
静岡県立総合病院 院長
小西 靖彦 先生 | 15 静岡県内臨床研修病院の魅力
富士宮市立病院
島田市立総合医療センター
JA静岡厚生連 遠州病院 |
| 05 医学修学研修資金利用者の声
小嶋 瑛璃子 先生 | 19 特集ページ |
| 06 ふじのくに次世代医師リクルーター | 21 ふじのくに地域医療支援センター |
| 07 医学修学研修資金利用者の声
久保田 真央さん 松山 純さん | 22 静岡県はどんなところ？ |
| 08 全国の奨学生利用者からの声 | |
| 09 ふじのくに
バーチャルメディカルカレッジの紹介 | |

ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ理事長



静岡県知事

川勝 平太

世界が注目する静岡県で活躍を

“ふじのくに”静岡県は、温暖な気候や世界文化遺産登録10周年となる富士山などの自然環境に恵まれ、製造業や農林水産業も盛んであり、様々な分野において素晴らしい世界クラスの環境を有しています。

一方で、人口に対して医師が少ないという現状があり、本県で働く医師を養成するため、平成26年に「ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ」を創立しました。ここでは、静岡県医学修学研修資金制度の利用者に対し、若手医師の県内勤務を促進する取組やウェブを活用した情報発信など行っており、全国どこの医学部に入学しても本県の地域医療の魅力を学ぶことができます。令和4年4月現在、ここで“学んだ”627人もの方が県内の病院で勤務されており、本県の医療に貢献いただいております。

また、本カレッジの学長である宮地良樹先生は、静岡社会健康医学大学院大学の学長として、健康寿命の更なる延伸に向け、ゲノムコホート研究や医療ビッグデータの解析などの新しい学術領域を加えた「社会健康医学」の推進にも尽力されています。

さらに、優秀な医師を全国から呼び込み、県内への定着を促進し、医師にとって魅力のある教育・研究環境を提供するため、全国初となる医学の博士課程を持つ医科大学院大学の設置を目指しています。

2023年は、本県が「東アジア文化都市」に選定され、日本の「文化の顔」、いわば「文化首都」として、本県に日本各地の文化を結集し、世界に広く発信すべく多彩な取組を進めています。

皆様もバーチャルメディカルカレッジで学び、世界に誇る様々な魅力がある静岡県について知っていただき、医療の第一線で御活躍いただきますことを、御期待申し上げます。

略歴

昭和47年	学士(早稲田大学第一政治経済学部経済学科)
昭和50年	修士(早稲田大学大学院経済学研究科)
昭和60年	D.Phil.(オックスフォード大学)
平成2年	早稲田大学政治経済学部教授
平成10年	国際日本文化研究センター教授
平成19年	学校法人静岡文化芸術大学学長
平成21年	静岡県知事(現在4期目)

ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ学長



宮地 良樹

医療へのこころざしある仲間が 集う静岡県に

このガイドブックを手に取った皆さん、医療を通じた社会貢献や病気を抱えた患者さんの治療を夢見て、医師になるため、日々の勉学に励んでいることと思います。

皆さんのこころざしを支えるため、静岡県は、川勝知事自らが先頭に立って「ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ」を創立し、皆さんに県内で思う存分活躍していただけるよう、在学中から静岡県の地域医療の魅力に触れる機会を提供しています。

令和4年度はカレッジの学生を対象とした夏季セミナーを3年ぶりに対面で開催し、全国各地の医学生が参加し、静岡県の医療を知っていただくとともに、将来ともに働く仲間と交流を深めました。

また、静岡社会健康医学大学院大学では、第一線の医療現場にいる方々が働きながら専門的な研究ができる環境を用意しています。令和5年4月には、更なる教育の充実を図るために、博士後期課程及び修士課程特別専門コースが設置されます。このように、社会健康医学の学識を社会に還元し、医療・保健・福祉の向上に貢献する人材の育成に取組んでいます。

静岡県には、充実した学びの場があり、こころざしある優れた医師が集まっています。是非皆さんも仲間となっていただき、力を合せて静岡県の地域医療を支えていこうではありませんか。

皆さんが、将来、静岡県で永く御活躍されることを期待しています。

略歴

昭和26年	静岡市生まれ
昭和52年	京都大学医学部卒業
昭和60年	医学博士(京都大学)
平成4年	群馬大学医学部皮膚科教授
平成10年	京都大学大学院医学研究科皮膚科教授
平成26年	滋賀県立成人病センター(現滋賀県立総合病院)病院長 京都大学名誉教授
令和3年	静岡社会健康医学大学院大学学長 現在に至る



上級医から指導を受ける研修医



「医師は社会のために存在します。」

医学教育のスペシャリスト

静岡県立総合病院 院長／一般社団法人日本医学教育学会 理事長

小西 靖彦 先生

今までの医師としての来歴

昭和57年に京都大学を卒業し、外科医としてスタートを切りました。大学院で肝灌流保存の研究を行った後に、UCLAに留学して肝移植の臨床に携わる一方、患者さんの検体をもとにした生化学研究の両方に従事していました。

30代前半で帰国し、肝胆脾外科を中心に大阪の済生会で外科部長として勤務していました。40代に入ってからは副院長の管理業務が中心になりました。

2006年に臨床研修が必修化され、働いていた病院が臨床研修病院になるために関わり出したのが医学教育との最初の接点でしたが、難しい教育用語やオタクの専門家の間で苦しみ、当時は嫌いでたまりませんでした。

40代後半に、全国の済生会病院の教育担当の組織づくりに関わって東京の済生会本部に移り、50代はじめに母校の医学教育推進センターの教授として異動することになりました。今思い出しても、随分意外な動きでした。

「教育」は病院の大きな柱

高度・急性期病院として、県民の医療を守る最後の砦として、県立総合病院(県総)が担う重責を改めて感じています。我が国でトップクラスの規模と実力を備えた病院をさらに高い位置に押し上げたいと思っています。

高度な臨床のみならず、研究もできる病院を目指します。当院は科学研究費をとれる病院に指定されています。基礎的な研究だけでなく、臨床の現場で起こるQuestionに応える「臨床研究」に重点をおくつもりです。

たくさんの医学生・研修医、看護学生、薬学部学生…その他メディカルスタッフの教育にあたっています。「教育」は病院の大きな柱です。次代を担う人材を育成することは当院の責務ですし、よい医療の継続性のために必須です。

「現場中心の教育」を

静岡県は人口当たりの勤務医数が少ないと有名です。そのため医師不足という切り口で語られることが多いのですが、どの県においても本当に重要なのは若い医師・医学生の「教育」です。若い人たちが静岡県に根付いてくれるためには、地域に良い指導医がいることが前提です。

よい指導医は「教育能力」を備えていなくてはなりません。臨床能力と教育能力は必ずしも一致しないことがあります。私たちは、臨床については厳しく教え・学んできましたが、教育法については学んだことが少なそうです。小難しい教育学ではなく、現場でどう指導するのか、臨床の場面でどんな風に学ぶとよいのかについて「現場中心の教育」をもっと実践できるといいと感じます。



静岡県に赴任して

福井の田舎出身なので、まずは冬の気候の良さに愕然としました。同じ日本なのに不公平です！

静岡県といつても広くて、静岡もいろいろだということが少しずつわかってきました。静岡市はおとなしい街のように感じます。関西人にとって、車の運転がびっくりするほど穏やかですし、どぎつい自己主張の世界でもなさそうですね。

他から来た者だからわかるのかもしれません、静岡が好きな静岡人が多い印象を受けます。そんな県は幸せだなど私は思います。

医師を目指す人へのメッセージ

今は若い医師の環境が恵まれた時代になってきました。給与面でも、労働面でも。それにも関わらず、若い時期の医師が身に付けなくてはならない知識や技能などの資質・能力は昔よりずっと増大しています。私たちのころは「若いから仕方ないか」で片づけられたことが、今は「できて当然」と言われることも多いです。

若い医師たちには、ネットに流れるさまざまな情報はそれとして受け流しつつ、我が身の成長を貪欲に掴み取ってほしいと思います。深い学修は、恵まれた教育環境だけからは生まれないので。「明日までになんとかしなければならない」と追い詰められた状況で、一気に学ぶことが多いのは先輩たちの多くが知るところです。私がいたアメリカでも、6時前からICUに来ているのは研修医と学生でした。



ただし、自身の健康マネジメントを学ぶことは、現代人として必須です。ストレスコーピングや友人との関係構築、メンターとの対話など、さまざまなチャンネルを知ることが第一歩です。

でも、無理なら「休む」、独りで「抱えない」、辛かったら「辞める」…など、思い切ってしまうことも考えておいてください。

静岡県が好きな若い医師の方々は、精一杯学んで静岡県に貢献してください。医療は宇沢弘文のいう「社会的共通資本」で、医師は社会のために存在します。医師が患者に寄り添う強い思いを持たないとしたら、それは医療と社会の終わりです。私たちの使命は、医療法や労働条件などの決まりごとより上位にあります。静岡県で身につけた医師の素養と能力は、ぜひ静岡県で県民のために活かしてください。

みなさんは思っているより早く「指導医」になります。近い将来のことを考え、教え方について学び始めてください。



スキルアップセンターでの手技トレーニング風景



医学修学研修資金

利用者の声

専攻医編

静岡市立静岡病院
内科(循環器内科専攻)

小嶋 瑛璃子 先生

聖マリアンナ医科大学卒業/神奈川県出身
(第8期次世代医師リクルーター)

静岡県医学修学研修資金について

大学入学前から本制度について知っていたので、入学時は利用したいと考えていました。また本制度の利用により学業と部活動を両立することができ、充実した大学生活を送ることができました。

学生生活

あまり器用なタイプではなかったため、大学時代は勉強と部活動が生活のほとんどを占め、アルバイトは時間をみつけて家庭教師をする程度でした。医学部の学生は大半が運動部に所属していましたが、私は空手道部に所属していました。部活で培った礼儀作法や人間関係は今でも私の宝物であり、仕事を始めてからも部活のOB・OGにはたくさん助けてもらっています。体幹も鍛えられたため、病院の採用面接では姿勢がいいと褒められたこともあります。

初期臨床研修

私は静岡市立静岡病院で2年間の初期研修を行いました。将来は各々専門科に進むとはいえ、私たちは患者さんの全身を診る必要があり、上司には『循環器内科医である前に内科医であれ』とよく言われました。全身を管理していく上で、糖尿病の管理、腎機能の評価など各科で学んだことは今でも日常診療の糧になっています。

現在の診療科を専攻したきっかけ

幼い頃、兄と参加した心臓血管外科の有名な病院の見学会に参加したことが医師を志望したきっかけですが、自身の性格的に慢性期より急性期が向いていると思ったこと、手技がある科を志望していたこと等が専攻のきっかけとなりました。そして、心臓という臓器とデバイスなど今後発展していく技術にも興味がありました。さらにせっかちな性格である故、結果がすぐに目に見えてわかること、直ちに治療に結びつけることができるシンプルな診療の在り方も性に合っていたのではないかと思います。

配置調整における勤務先の決定

私は循環器内科志望でしたので、県内でも有数のハートセンターがある当院での研修継続を選択しました。当院を専門医研修先として希望したときは、病院長をはじめ循環器内科の先生方にとても喜ばれ、歓迎していただきました。

その意向を面談で静岡県の担当の方に相談した結果、希望に沿った配置をしていただきました。現在は当院の内科専門医研修プログラムで研修中であり、今後は循環器内科のサブスペシャリティ取得を目指しています。

市立静岡病院での専門医研修について

現在私は医師5年目で、一般的な内科症例から緻密なICU管理を必要とする超重症患者まで、様々な症例を主治医として担当しています。目まぐるしく毎日が過ぎていきますが、勉強しても知識がまだ不足していることや、身につけられる新しい手技もたくさんあり、自分には伸びしろしかないと感じています。当院は内科一般の指導体制・症例数に事欠かないことから、全身を診ることができる内科医になるために必要な環境が整っていると思います。また、診療科同士の仲がよく垣根もないため内科・外科問わず気軽に相談することができます。

医師を目指す皆さんへ

医学部に合格することがゴールではなく、医師国家試験に合格することもゴールではない、医師とは一生勉強し続けなければならないゴールのない職業なのだと常々思います。どんな環境でどこの病院で研修しようとやる気があれば様々なことを学べます。逆にやる気がなければ医局で一日を過ごす研修医で終わってしまいます。静岡県は医師が少ない分1人あたりの症例数も多く、やる気さえあればどこでも十分な経験の積める環境が用意されていると思います。

研修先の病院については志望科をいくつか想定して、その科の症例がしっかり用意されている病院を選んでみましょう。その中から病院の環境や雰囲気を見学し、自分にあった病院を選んでいただけたらと思います。

みなさんと働ける日を心待ちにしています。



＼静岡県の地域医療の魅力を発信します／ ふじのくに次世代医師リクルーター

静岡県では、県内で活躍する若手医師を“ふじのくに次世代医師リクルーター”として委嘱し、本県の地域医療の魅力や情報を発信しています。現在、24名の若手医師が活動中です。



主な活動内容

- ・医学修学研修資金利用者意見交換会で医学生等と交流
- ・ふじのくに地域医療支援センターメールマガジンへの寄稿
- ・高校生等向け講演会出席



メールマガジンでリクルーターのメッセージを配信しています!

藤枝市立総合病院 横山 真依子 先生（2022年11月掲載）

藤枝市立総合病院初期臨床研修医2年目の横山真依子と申します。

2022年2月からふじのくに次世代医師リクルーターとして活動させていただいております。出身は静岡市で出身大学も浜松医科大学と、生まれてこのかた静岡県以外で生活したことはありません。人も気候も温かく、とても住みやすい良い街だなと思います。

大学時代はバドミントン部に所属し、週4～5回活動していました。現在働いている病院にも部活の先輩方がたくさんいらっしゃり、仕事やプライベートでも大変お世話になっております。このような繋がりが多いのも、地元で働くひとつのメリットではないかと考えています。

私が静岡県医学修学研修資金の存在を知ったのは高校生の頃でした。静岡県内で公務員として働く母からこの研修資金のことを教えてもらい、静岡で勤務すれば返済免除になるという点に魅力を感じ大学1年から3年までの3年間貸与を受けました。初めは大学生活がお金で困らなければいいなという軽い気持ちで受けましたが、実際の学生生活は勉強と部活に時間の大半を費やし、アルバイトを十分にはできなかったので、この研修資金を借りて本当に良かったと思います。

私が、静岡県（特に藤枝市立総合病院）で働くと思ったのは、いくつか病院見学に伺った際に、研修医の先生方がいきいきと働いているなと思ったからです。静岡県は医師が不足していると言われており、その分勤務が忙しかったりすることもあると思いますが、その中でもいきいきと働けるのは静岡県民の温かさや気候も関係しているのかもしれません。

また、医師が不足している分、各地域に中心的な役割を果たす医療機関が存在しています。そのような病院は診療科や救急医療体制が充実しているため、初期研修先としてとても良い選択肢の一つになるのではないかと思います。藤枝市立総合病院は、精神科と血液内科以外の診療科に常勤医師があり、救命救急センターをはじめ救急の体制が充実しており日々とても充実した研修生活を送ることができます。

これからも静岡県の魅力を伝え、少しでも静岡で働きたいという若い人たちを増やすためにリクルーターとして活動していきたいと思います。



県内で活躍する
リクルーターの
メッセージはこちらから
ご覧いただけます。



医師を目指したきっかけ

幼い頃、大叔母を癌で亡くし、悲しみに泣く母の姿を見て、胸が苦しくなりました。それを機に、命は輝くものである一方で、痛みや苦しみ、悲しみを伴うものであること、ごく普通の健康がとても大切であると考えるようになりました。その後、母の持病や私自身の療養経験から、病気を治すことができる医師に憧憬を抱き、自分多くの人を助けることができる医師になりたいと思いました。

静岡県医学修学研修資金について

医師になつたら静岡で従事するだろうと考えていたため、地域枠受験を検討しました。利用することに不安もあったので制度について調べ、実際に働かれている先生方にお話を伺ったところ、キャリア形成プログラムがあることを知り、安心して地域枠での受験を決めることができました。

**受験勉強について**

高校生の時は質より量を重視していましたが、大学では量より質を意識し、問題演習の際に何がポイントかを意識しながら解いたり、試験前には何を理解したかを記録しています。

息抜きの際は目標を定め、達成できたら甘いものを食べたり、映画を見たり

浜松医科大学/令和2年度入学(地域枠)

駿東郡清水町出身

医学生編

久保田 真央さん

など、自分の好きなことをして、勉強から完全に離れることを大事にしています。

大学生活

基本は大学の講義と試験がメインですがPBLという課題解決型学習をグループで取り組んでいます。カリキュラムの特性上、医学部は必須の科目が多いため、自分で好きな授業を選択して水曜日は空きコマだけにする、というようなことは出来ませんが、空き時間を上手く活用して、バイオリンやアルバイトなど、今まで経験してこなかったことに沢山チャレンジしています。

医学部を目指す皆さんへ

「受験という山を登るのは先生や親ではない、自分1人で登るしかない。」

担任の先生が仰っていた言葉の一つで、気が緩んでしまいそうな時、この言葉を思い出し自分を鼓舞していました。結果が出ない中で勉強を進めるのは苦しいことですが、頑張ればいつかは日の目を見るはずです。皆さんの努力が実を結ぶことを祈っています。

医学生編

川崎医科大学/平成30年度入学(地域枠)
長野県出身

松山 純さん**医師を目指したきっかけ**

高校時代は医師を目指そうとは微塵も思っていませんでした。ただ、安定した収入を得ることができるという安直な理由で看護師を志しました。看護師になって手術室で勤務することになりましたが、手術室で働く中で医師の専門性の高い知識はもちろん技術の高さに驚き、そして憧れるようになりました。また、患者に対する思いやりを持った尊敬できる医師との出会いもあり、医師になろうと決意しました。生活や受験に対する不安は大きかったですですが自分の気持ちに正直に生きたかったため、遅いながらも医学部再受験を決意しました。

静岡県医学修学研修資金について

合格した大学が私立であり学費が非常に高いため、私自身や家族だけでは学費を工面できないと考え静岡県医学修学研修資金を利用しようと考えました。

大学生活

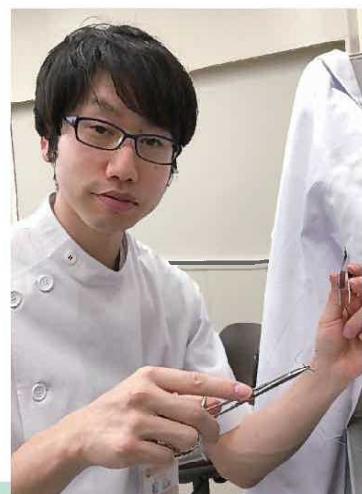
大学生活では、テストや実習を受けるなど忙しい日々を過ごしています。勉強は大変ですがテストのためにするのではなく、

将来臨床のどこかで役に立つかかもしれないということを意識してるようにしています。実習も同じ考え方で手術など見学させていただいた際は、皮膚縫合などをさせてもらうようにしています。また、学年で一番高齢ですがクラスメートはそこに遠慮せず気軽に話してくれるので楽しく過ごせています。

私生活では、子どもが二人いるので週末は帰省し育児を行っています。日々の子供たちの成長を見ることが生きがいとなっています。

医学部を目指す皆さんへ

医学部は勉強量が多いといわれています。実際に入って量はかなり多いと感じました。しかし、単純暗記や病態生理の理解など行っている内容は医学部受験よりもはるかに簡単な事なので安心してください。また、医学部では勉強だけでなく、部活動や文化祭など楽しい事も多くあります。医学部受験は大変だと思いますが、その先には楽しい学生生活がありますので頑張ってください。応援しています。



全国の 奨学生利用者からの 声

静岡県医学修学研修資金

声

父の働いている姿を見て、自分も患者さんに必要とされる医師になりたいと思ったから。

東京女子医科大学

地域で医師が不足しているところがあると実感し、そうした地域で働くことで医師不足を解消できればと考えたため。

弘前大学

地元静岡県の医療に貢献したいという思いが強くあつたため。

昭和大学

貸与額が魅力的であること、医師が不足している地域で医療に貢献したいと思ったから。

聖マリアンナ医科大学

Q1

医師を目指したきっかけは

高校生の時にふじのくにのイベントで県立こども病院を見学し、医師という職に惹かれたため。

東海大学

直接人のためになれる職につきかったから。

東京女子医科大学

スポーツをしていてけがをした時に、医師にお世話になったのがきっかけ。

聖マリアンナ医科大学

Q2

数ある奨学金の中から静岡県医学修学研修資金を選択した理由

夢に向かって頑張ってください。一緒に働ける日を楽しみにしています！

名古屋大学

診療科の制限がなく、十分な資金の貸与を受けられるため。

国際医療福祉大学

キャリア形成の支援に力を入れていたため。

帝京大学

Q3

医学部進学を目指す高校生へのメッセージ

医師を目指したくても、金銭面などで諦めざるを得ない方、奨学金制度を利用すれば夢を叶えることができるかもしれません。諦めずに頑張ってください。

近畿大学

医学部の勉強はとても大変ですが、それに見合うだけの達成感があります！頑張ってください！

埼玉医科大学

私自身、高校時代は成績が良い方では無く、特に理系科目（数学）が苦手でしたが、「医師になりたい！」という強い思いを持てば、医学部に入れます！

獨協医科大学

全国の
利用者分布



ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ

理事長／川勝平太 学長／宮地良樹

ふじのくに地域医療支援センターの運営する仮想医科大学「ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ」では、静岡県医学修学研修資金を利用している全国の医学生等を対象として、県内イベントの開催やウェブコンテンツの配信を行っています。

また、卒業後は、全国の協定締結大学や公的病院等との連携により、静岡県での勤務をサポートします。

カレッジ入学前の高校生には、医師・医学部進学を目指す方に向けたセミナーの開催を行っています。

ふじのくにバーチャルメディカルカレッジに入学するまで

こころざし育成セミナー 夏

県内病院の協力により、医師の講話、模擬手術体験、施設見学などを行っています。

高校



フォローアップセミナー 冬 春

大手大学進学塾による受験対策、静岡県地域枠設置大学の紹介などを行っています。



県内外の大学医学部へ進学

静岡県医学修学研修資金の貸与

月額20万円の貸与(6年間)

入学

ふじのくに
バーチャルメディカル
カレッジ

詳しくは11~12Pをご覧ください

医学部（6年間）

ふじのくにバーチャルメディカルカレッジに入学してから

ふじのくにバーチャルメディカルカレッジ夏季セミナー

県内で活躍する医師の講演やリクルーターも参加して
グループワークを行い交流を深めています！

2023年8月9日に
静岡市内で開催予定です！



【参加者からの声】

- ・講話、講演会も貴重なお話で、グループワークもとても楽しかった
- ・立派な医師になるために必要なことを知ることができ、今後の医学の勉強のモチベーションが上昇した
- ・全国の医学部の仲間との交流ができ、より多くの視野や考えを得ることができた

医学部(6年間)

臨床研修(2年間)

専門研修以降

医学修学研修資金利用者意見交換会

専任医師や先輩医師との交流を通して地域医療を学びます。



病院合同説明会

県内臨床研修病院の指導医や先輩研修医がお待ちしています。



静岡県には**24**の臨床研修病院があり、特色ある臨床研修プログラムを用意

医師臨床研修マッチングに参加し研修先を決定

○病院合同説明会

○屋根瓦塾 in Shizuoka

詳しくは15~19Pをご覧ください

2年目

春:専攻医希望の診療科などを県に報告

夏:専任医師との面談を実施

秋:参加を希望する専門研修プログラムに応募

冬:勤務先の決定

医師キャリア形成支援業務

静岡社会健康医学大学院大学
県立総合病院

浜松医科大学

- ・キャリア形成支援
- ・医学修学研修資金被貸与者の勤務先病院の決定支援

詳しくは13~14Pをご覧ください

地域枠・
キャリア形成プログラム



静岡県内の病院では**全19領域**の専門研修プログラムを用意

専門研修期間中

プログラムリーダー、県と協議の上、勤務先を決定



専門研修後

秋に専任医師との面談を実施、県と調整の上、勤務先決定

静岡県が徹底サポート! 静岡県医学修学研修資金制度

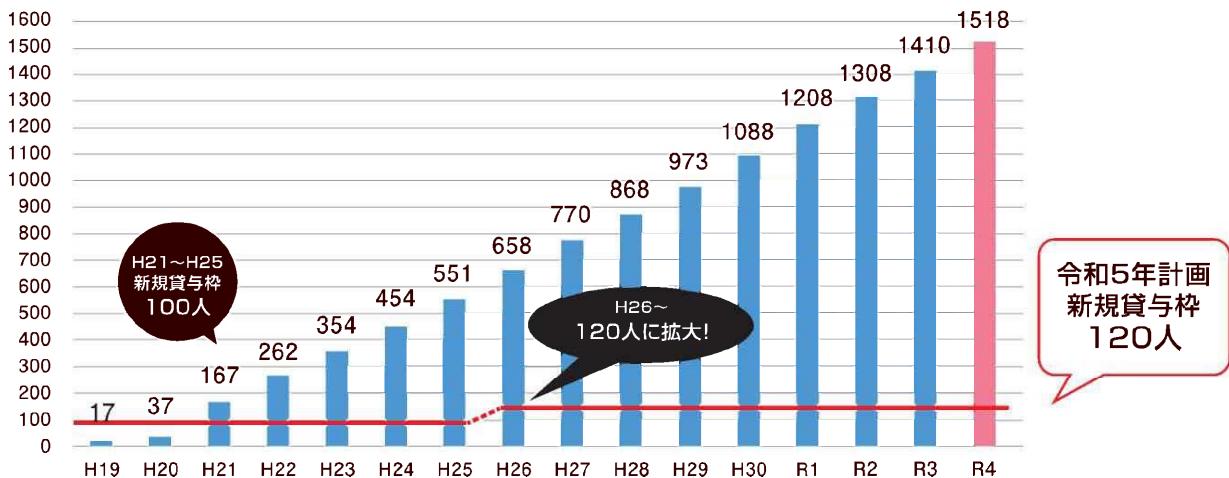
制度の概要

貸与期間	原則6年間(正規の修業年限)
貸与額	月額20万円(6年間総額1,440万円)
返還免除 勤務期間	勤務義務:9年間(貸与期間の1.5倍の期間) 履行期限:16年間(貸与期間の2倍+4年)
貸与枠	<p>【一般枠】入学後に県へ貸与申請し、書類審査・面接審査を経て貸与決定 (対象:全国の医科大学)</p> <p>【大学特別枠】入学後に大学へ貸与申請し、大学から県への推薦を経て貸与決定 (対象:浜松医科大学、東京大学、東京医科歯科大学、名古屋大学、慶應義塾大学、杏林大学、東京慈恵会医科大学、日本大学、日本医科大学、東京医科大学、東京女子医科大学、聖マリアンナ医科大学、昭和大学、岐阜大学、京都大学、国際医療福祉大学)</p> <p>【地域枠】貸与を受けることを条件に別枠入試にて出願⇒合格となつた場合貸与決定 (対象:指定10大学)</p>
診療科の指定	なし

*大学院生や専攻医を対象とした制度もあります。

(注)令和元年度以前に貸与を開始された方は、一部内容が異なりますのでご注意ください。

実績(令和5年3月現在1,518人が利用しています)



大学別利用者

静岡県地域枠設置大学

大学名	利用者	大学名	利用者	大学名	利用者	大学名	利用者
浜松医科大学	558	埼玉医科大学	17	岩手医科大学	8	長崎大学	4
聖マリアンナ医科大学	82	山梨大学	17	東北大学	8	大分大学	4
川崎医科大学	65	秋田大学	16	慶應義塾大学	8	東北医科薬科大学	3
関西医科大学	43	名古屋大学	16	新潟大学	8	群馬大学	3
東海大学	43	滋賀医科大学	14	熊本大学	8	京都府立医科大学	3
近畿大学	42	獨協医科大学	12	山形大学	7	大阪医科薬科大学	3
日本大学	40	福井大学	12	岐阜大学	7	神戸大学	3
昭和大学	35	三重大学	12	山口大学	6	兵庫医科大学	3
日本医科大学	28	琉球大学	12	北海道大学	5	東京大学	2
藤田医科大学	28	金沢医科大学	11	信州大学	5	大阪市立大学	2
順天堂大学	24	国際医療福祉大学	10	京都大学	5	和歌山県立医科大学	2
杏林大学	23	徳島大学	10	広島大学	5	愛媛大学	2
帝京大学	22	久留米大学	10	宮崎大学	5	佐賀大学	2
愛知医科大学	21	福島県立医科大学	9	旭川医科大学	4	千葉大学	1
東京医科大学	19	東京医科歯科大学	9	弘前大学	4	大阪大学	1
東京慈恵会医科大学	18	富山大学	9	筑波大学	4	九州大学	1
東京女子医科大学	18	名古屋市立大学	9	東邦大学	4	福岡大学	1
北里大学	18	島根大学	9	横浜市立大学	4	鹿児島大学	1
金沢大学	18	高知大学	9	鳥取大学	4		1,518

静岡県と連携する大学

静岡県では、県内外の大学と連携して、在学中から卒後教育までの様々な支援を通じて、本県の地域医療に貢献する医師の育成を行っています。

静岡県地域枠を設置する10大学



令和5年度から設置

日本大学

所在地: 東京都板橋区
静岡県地域枠定員: 3名



入試サイト
https://www.nihon-u.ac.jp/admission_info/



浜松医科大学

所在地: 静岡県浜松市
静岡県地域枠定員: 15名



入試サイト
www.hama-med.ac.jp



順天堂大学

所在地: 東京都文京区
静岡県地域枠定員: 5名



入試サイト
www.juntendo.ac.jp/med/



近畿大学

所在地: 大阪府大阪狭山市
静岡県地域枠定員: 10名



入試サイト
kindai.jp/exam/



川崎医科大学

所在地: 岡山県倉敷市
静岡県地域枠定員: 10名



入試サイト
m.kawasaki-m.ac.jp/examination/



東海大学

所在地: 神奈川県伊勢原市
静岡県地域枠定員: 3名



入試サイト
www.med.u-tokai.ac.jp/web/eei/



帝京大学

所在地: 東京都板橋区
静岡県地域枠定員: 2名



入試サイト
www.teikyo-u.ac.jp/applicants/



関西医科技大学

所在地: 大阪府枚方市
静岡県地域枠定員: 8名



入試サイト
www.kmu.ac.jp/admissions/



日本医科大学

所在地: 東京都文京区
静岡県地域枠定員: 4名



入試サイト
www.nms.ac.jp/college/nyushi/

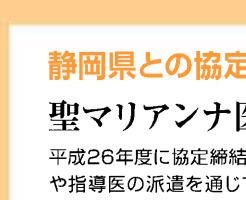


昭和大学

所在地: 東京都品川区
静岡県地域枠定員: 8名



入試サイト
adm.showa-u.ac.jp/



静岡県との協定締結大学

聖マリアンナ医科大学

平成26年度に協定締結。医学生の育成や指導医の派遣を通じて、県東部地域の医療の確保に取り組んでいます。



入試サイト
www.marianna-u.ac.jp



勤務先決定方針

貸与枠	令和2年度以降 入学者	令和元年度以前 入学者
一般枠	臨床研修終了後、返還免除勤務期間のうち4年間は、県の指定する地域(医師多数区域以外を想定)で勤務 ※希望者は、キャリア形成プログラムを適用	専門研修終了後、残りの勤務義務期間をA・B病院で勤務 【A病院】本人が希望する2次医療圏域で県が指定する病院 【B病院】A病院が属する地域とは異なる地域で県が指定する病院
大学特別枠	本人の意向を聴取し大学と協議した上で県が個別に指定する機関で勤務	
地域枠	キャリア形成プログラムの適用 (臨床研修修了後、7年間のうち4年間を医師少数区域等で勤務)	[キャリア形成プログラムを希望] キャリア形成プログラムの適用(大学6年時に適用同意書を提出) [キャリア形成プログラムを希望しない] 一般枠と同様AB病院で勤務 (ただし、1病院あたりの勤務時間は原則2年間とする)

返還免除を受けるための勤務シミュレーション（令和2年度以降入学者）



医学修学研修資金の県内勤務者数（令和4年4月現在）

東部			中部			西部		
2次医療圏域	病院名	計	2次医療圏域	病院名	計	2次医療圏域	病院名	計
駿東 田方	西伊豆健育会病院	2	静岡	県立こころの医療センター	3	中東遠	磐田市立総合病院	39
	伊東市民病院	2		県立こども病院	8		中東遠総合医療センター	21
	静岡医療センター	11		県立総合病院	38		市立御前崎総合病院	4
	県立静岡がんセンター	11		静岡市立静岡病院	38		菊川市立総合病院	8
	沼津市立病院	9		静岡市立清水病院	6		公立森町病院	5
	伊豆赤十字病院	1		静岡赤十字病院	26		公的医療機関等以外	2
	三島総合病院	1		静岡済生会総合病院	26		浜松労災病院	3
	沼津中央病院	2		JA静岡厚生連 静岡厚生病院	1		天竜病院	1
	聖隸沼津病院	3		公的医療機関等以外	1		浜松医療センター	26
	順天堂大学医学部附属静岡病院	6		島田市立総合医療センター	16		浜松市リハビリテーション病院	1
富士	公的医療機関等以外	2	志太 榛原	焼津市立総合病院	9		国民健康保険佐久間病院	1
	富士宮市立病院	27		藤枝市立総合病院	32		浜松赤十字病院	11
	共立蒲原総合病院	3		榛原総合病院	1		JA静岡厚生連遠州病院	15
	富士市立中央病院	17		藤枝駿府病院	1		聖隸浜松病院	38
	鷹岡病院	1					聖隸三方原病院	35
東部計			中部計			西部計		
98			206			323		

※公的医療機関等以外は返還免除後の定着者等
※医師少数区域・医師少数スポット等は、今後変更になる可能性があります。

合計 627名

静岡県キャリア形成プログラムの概要

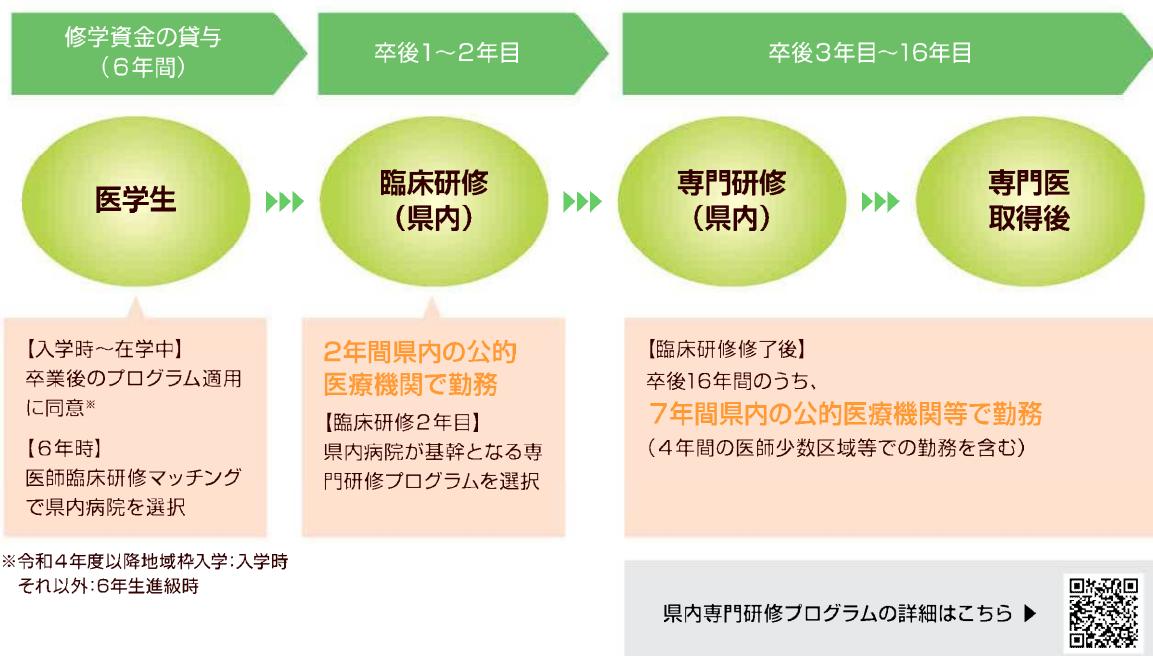
(1) 概要

医師としての能力開発の向上と地域医療への貢献を両立することができるプログラム

(2) 対象者

- ・令和2年度以降に貸与を開始した地域枠医師
- ・一般枠、大学特別枠医師のうち希望する医師
- ・令和元年度以前に貸与を開始した地域枠医師のうち希望する医師

(3) プログラムイメージ



令和元年度以前入学者の返還免除のための勤務シミュレーション

本人と協議し、その時点における医師の充足状況等を勘案し、医師不足の病院の中から以下の2つの病院を県が勤務先として決定する。

A病院:本人が希望する2次医療圏域で県が指定する病院

B病院:A病院が属する地域とは異なる地域で県が指定する病院

*B病院については、原則、医師少数区域で勤務(状況により中位区域での勤務となる可能性がある。)

6年間貸与を受けたケース

専門医研修修了後の残勤務期間の半分をA病院に勤務し、さらに残りの期間をB病院で勤務。

年次	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	計
勤務	臨床研修		専門医研修プログラム等				A病院		B病院: A病院が属する地域(西部)とは異なる地域の病院		—
勤務先	県内の臨床研修病院		—				西部		東部又は中部		—
算定	1年		4年				2年		2年		9年

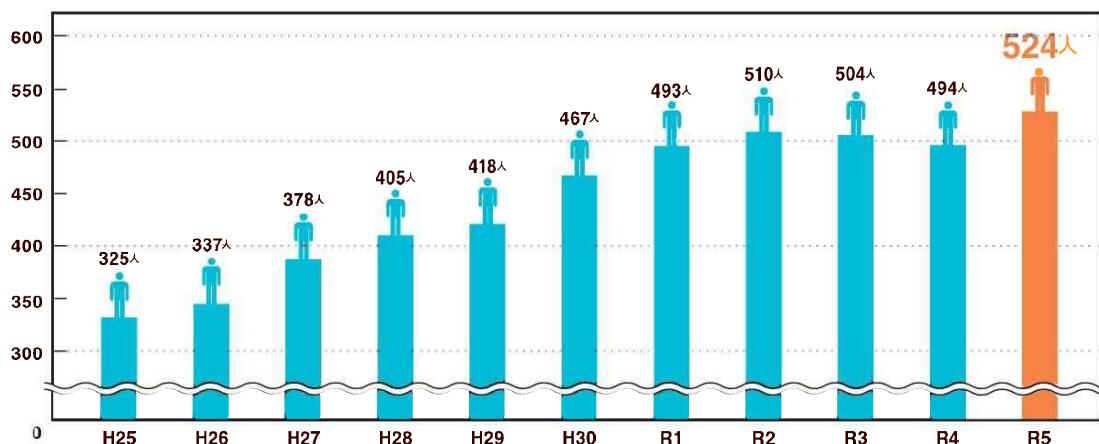
静岡県内 臨床研修病院の魅力

静岡県には、24の臨床研修病院があり、それぞれ特色ある臨床研修プログラムの提供しています。

臨床研修医は、この10年間で200名以上増加し、静岡県で医師としてのキャリアをスタートする方が増えています。

本県の臨床研修医数の推移

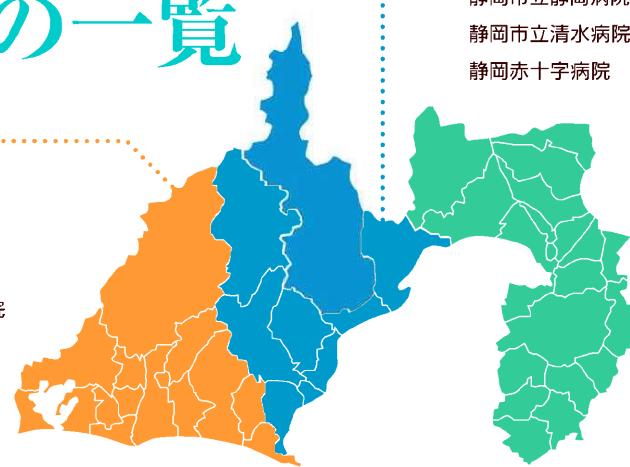
本県では、医学修学研修資金の貸与、ふじのくにバーチャルメディカルカレッジでの取組、県内各病院との協力を通じて、臨床研修医数のさらなる増加に向けて取り組んでいます。



臨床研修 24病院の一覧

西部地域9病院

- 磐田市立総合病院
- 中東遠総合医療センター
- 浜松労災病院
- 浜松医科大学医学部附属病院
- 浜松医療センター
- 浜松赤十字病院
- JA 静岡厚生連遠州病院
- 聖隸浜松病院
- 聖隸三方原病院



中部地域8病院

- 静岡県立総合病院
- 静岡市立静岡病院
- 静岡市立清水病院
- 静岡赤十字病院
- 静岡済生会総合病院
- 島田市立総合医療センター
- 焼津市立総合病院
- 藤枝市立総合病院

東部地域7病院

- 伊東市民病院
- 国際医療福祉大学熱海病院
- 静岡医療センター
- 沼津市立病院
- 順天堂大学医学部附属静岡病院
- 富士宮市立病院
- 富士市立中央病院

臨床研修病院の掲載ページ



fujinokuni-doctor.jp/igakuse/kenshu/index.html



CLOSE UP !

富士宮市立病院

臨床研修プログラム責任者 / 眼科科長

増田 光司 先生

Dr. Koji Masuda

**「なりたい自分」を実現するために****地域の中核病院として**

富士宮市立病院は人口約13万人、近隣市町を含め診療域人口15万人、富士山麓南西に位置し、JR身延線富士宮駅南口から1分のところにあります。15診療科を標榜しており、380床の急性期医療、2次救急医療を担う豊富、多彩な症例を有する中核的総合病院です。平成30年には地域包括ケア病棟を増設し、入院患者の退院支援なども行っています。新設した建物には、新医局、研修医室を配置しました。

研修サポート体制

富士宮市立病院は、平成26年度より医師免許取得1年目から正規職員として採用し、充実した研修を行えるようサポート体制を整備しました。当然ながら、誰であってもわからないことは多くあります。一方で、社会人は、自身の能力を提供することによって給与や報酬を得る立場でもあり、教えてくれないからできないということを減らしていく、自ら知識を求めて質問し、技術習得に励んでほしいと思います。

職種の垣根が低いため、気軽に質問などがしやすく、専門知識や医療の基

礎を学びやすい環境となっています。

学会参加や発表の機会もあり、発表の指導も受けやすく、学会費用などを補助しています。

住宅に関しても希望する住宅を病院で賃貸借契約を結び、賃貸料の一部を補助しています。病院の西側100m圏内にはイオンモール富士宮があり生活必需品には困らない環境です。

プログラムの特色

プライマリーケアの基本的な診療能力(態度、技能、知識)の修得に重点を置いています。

各科の救急やcommon diseaseのレクチャー、救急症例検討会、CPCなどからなる総合診療カンファレンス及びミニレクチャーを行っています。月に1回程度の実習を行い、夏には富士山八合目診療所での研修があります。

2年間の研修期間のうちに最低5例の剖検の見学又は介助を行い、最低1例のCPCの症例提示及びレポートの作成を行います。

プログラムスケジュール

1年目は、内科、外科、救急の研修を行い、2年目は小児科、産婦人科、精神科、地域医療、選択科目を基本として、研修医のみなさんの希望を聞きながら、希望に叶うような研修スケジュールを調整して設定しています。当院で標榜していない診療科の研修を希望する場合には、浜松医科大学等の協力病院がありますので、協力病院の診療科でも1ヶ月の期間において研修することができます。

富士山研修

富士山登山シーズン中、富士宮市が浜松医科大学に依頼して、富士山八合目に登山者の救急治療のための「富士山衛生センター」を開設して、登山者の診療を行っています。浜松医科大学の医師・学生と一緒に、当院研修医が特殊な環境下での診療の実態を2泊3日の日程で参加し、見学・研修をしています。

富士宮市立病院

所在地： 静岡県富士宮市錦町3番1号

TEL : 0544-27-3151

E-MAIL : h-kanri@city.fujinomiya.lg.jp



院長 佐藤 洋





CLOSE UP!

島田市立総合医療センター

副院長 / 臨床研修プログラム責任者 / 腎臓内科

野垣 文昭 先生

Dr. Fumiaki Nogaki



～地域医療を支える医師を目指して～

大井川流域の医療を支えています

静岡県中部地域の大井川中流域に存在する島田市はおよそ人口10万人の地方都市です。当院の診療圏としては、島田市のみならず、大井川上流域の川根地域、加えて下流域の吉田町や牧之原市も含んだ広範囲の地域になります。

循環器疾患や脳卒中に関しては、さらに周辺の空白地域をカバーしており、診療圏はより広域になっています。断らない医療を信条に救急医療ではこれらの地域の最後の砦的な位置づけたるべく、日々格闘しています。

救急医療は研修医が支えています

救急患者の対応は、研修医が担うところが大きい分野です。2年間ほぼ通年で週1~2回救急チームの一員となり、上級医とともに平日日中の内科系・外科系救急に対応します。夜間・休日は副直医として、月4回内科系、外科系疾患に対応をします。救急で多くの経験を重ね、2年目の9月からは救急外来の内科系当直医として独り立ちします。主当直が内科系であるため、困ったときや忙し

いときは力になってくれます。また、各科当番医が設定されており、コンサルトは適宜可能です。当初独り立ちに不安に思っていた研修医諸君が当直を立派にこなしている姿を見るにつけ、安堵とともに成長が喜ばしいかぎりです。

研修医教育

ローテート中の各科研修に加え、座学を含めた研修医教育に力を入れています。心臓ならびに腹部エコー実習を1年目に行います。救急医療において迅速かつ低侵襲に行えるエコー診断は重要であり、これらの技術を身につけるのが目標です。また、毎週木曜日には救急外来で経験した症例を提示して他の研修医や上級医と議論する救急症例検討会、月曜日には各科医師による専門領域のレクチャーを行っています。

救急の現場において、CT診断の比重は絶大ですが、月に1回放射線科医師による救急画像レクチャーを行っており、救急疾患におけるCT診断のpitfallを詳しく解説していただいている。

当院の医師の働き方改革

研修医を含め当院医師の働き方改革

も進めており、研修医は各科ローテート中の臨床業務は勤務時間内にほぼ収まるように調整されています。

当直明けも10時30分までの業務となっています。日中の救急チームで時間が超過した場合や当直で患者対応が次の時間帯にずれ込んだ場合も、次の当直医に引き継ぐことを原則としました。受け持った患者に責任を持つことは大変重要なことなのですが、それをわかつた上で患者に不利益がないように、しっかり申し送りをして引き継ぐことが重要です。

新病院になりました

旧島田市民病院から建て替えを行い、2021年5月に445床の島田市立総合医療センターに生まれ変わりました。外観も内部も見違えるようにきれいになり、最新の機器をそろえましたが、スタッフのmindは歴史ある旧島田市民病院のままです。すなわち地域医療を支え、断らない医療の実践のために日夜努力をしています。

研修医の先生方にもそのmindを引き継いでもらい、どのような道に進もうとも、今後の医師人生の糧にしてもらいたいというのが我々の願いです。

島田市立総合医療センター

所在地： 静岡県島田市野田1200番地の5

TEL : 0547-35-2111

E-MAIL : soumu@shimada-gmc.jp



事業管理者 青山 武



CLOSE UP !**J.A.静岡厚生連 遠州病院**

副院長 / 研修管理委員長

高瀬 浩之 先生

Dr. Hiroyuki Takase



西部

**～フレキシブルに自分を磨く～****地域を守る病院**

遠州病院は浜松市街の中心にあり、浜松駅から最も近い総合病院として地域住民の健康を守るために機能しています。中規模ではありますが浜松市の救急医療を担っている病院の一つです。

さらに、救急医療だけでなく回復期医療、その後の在宅ケアまで、一貫したサービスを提供する院内完結型の病院です。

また、災害時には拠点となる病院として位置づけられています。

Common diseaseを経験できる

地域住民を守る病院において、どのような研修が可能でしょうか。当院は浜松市における6日に1回の二次救急輪番病院として地域の救急医療を担っています。平成30年7月より救急科を標榜し、積極的に救急車の受入を行い、更に救急医療体制が充実しました。その結果、年間の救急車受け入れ件数は4,000件程度を維持しています。救急医療現場では、1年次、2年次の研修医の2人態勢でまず救急患者を診察し、救急医の指導の下、プライマリーケアの習得を図ると

ともに救急医療のスキルを磨くことができます。その後、内科・外科系医師の指導を受けることにより、さらなる知識・経験の習得が可能です。

また、当院には回復期リハビリテーション病棟があり、急性期医療からの一貫した医療を実践することもできます。Common diseaseはもちろん、どんな疾患も経験すればそれは自分の宝になります。手に入れた宝を磨くためには、積極的に上級医や同僚に相談することも必要です。当院は中規模であるが故に各診療科の垣根が低く診療科の枠を超えて上級医にも相談しやすく、縦にも横にもコミュニケーションの取りやすい病院です。決して症例が少ない病院ではないので、多くの宝を手にして欲しいと思います。

当院の基幹型研修プログラムの特徴

2年間を通して当院で研修を行うことが可能です。幅広い領域での基本的診療能力を身につけるため、内科を6ヶ月間、救急科を3ヶ月間(麻酔科との1ヶ月間の連携を含む)、外科、産婦人科、小児科、地域医療、精神科を各1ヶ月間、各診療科の研修は原則1~2名の研修医

で行います(精神科および地域医療は協力型病院との連携をとっており、地域医療への密着度も上がります)。

2年間の研修期間のうち、必修期間が14ヶ月で10ヶ月は各自希望の科を選択できるようにフレキシブルなものとしています。熱意を持って積極的な研修を希望すれば、指導医の熱い指導を受け、幅広い領域での基本的診療能力や様々な手技を身につけることができます。三次救急に携わる病院ではないので、超重症症例に巡り合うことは稀ですが、確実に自分自身を成長させができる病院です。

上級医や指導医に「ちょっと質問しにくいなあ」と思うことがあっても、前述のように垣根の低い指導体制をとっていますので、気軽に質問できます。積極的に仕事や勉強を行える環境があるので、必修期間と自由選択期間を上手に使って、フレキシブルに成長していくください。「よ～し、やってみよう!」という意気込みで私たちとともに仕事と勉強を両立ていきましょう。

J.A.静岡厚生連 遠州病院

所在地 : 静岡県浜松市中区中央1丁目1番1号
TEL : 053-453-1111
E-MAIL : eh-rinken@ken.ja-shizuoka.or.jp



病院長 大石 強



臨床研修医向け研修会

静岡県では、臨床研修医数が年々増加しており、令和5年度に県内で医師臨床研修を行う方は、500名以上となります。臨床研修医を対象に、指導や交流を目的として県医師会と協力してイベントを開催しています。

Welcome Seminar in Shizuoka

2022年度は、医師臨床研修ガイドラインの中で研修が必須とされる項目(感染対策、ACP、緩和ケア等)をテーマに、2022年5~7月に全3回、講義形式の研修会を実施しました。

静岡県立静岡がんセンターの倉井華子先生や浜松医科大学医学部の大磯義一郎先生など、6名の講師をお迎えし、修了後、受講者には「受講証明書」を発行しました。



屋根瓦塾 in Shizuoka

研修を通じて臨床研修医ならびに若手医師のキャリアパス支援事業に取り組んでいます。

2022年度は4つのブースに分かれて、小児救急や産科救急等をテーマにグループワークやシミュレーターを使用したシミュレーション訓練など実践形式での研修を行い、修了証の授与を行いました。



静岡県医師バンク

静岡県では、県内の医師確保や医師偏在解消を目的として、一般社団法人静岡県医師会と協力し、県内で働きたい医師への就業支援等を行う医師向け無料職業紹介サイト「静岡県医師バンク」を運営しています。

「静岡県医師バンク」では、県内医療機関の求人情報を掲載しているほか、最新の勤務医関連情報や、研修会情報、キャリア支援情報等、キャリアアップを希望される医師の皆さんに役立つ様々な情報を発信しています。

医師の皆様には求職時に御相談いただくことで、医師のアドバイザーによる支援のもと、希望条件に沿った県内の求人医療機関を御紹介します。

求人医療機関・求職者の双方にとって納得のいくマッチングとなるよう、きめ細やかな相談対応を行っています。

静岡県医師バンク運営事務局

電話:054-246-6151(一般社団法人静岡県医師会内)
E-mail:dr-bank@jim.shizuoka.med.or.jp

静岡県医師バンク専用サイト

<https://www.shizuoka-doctorbank.jp>



みんなの力を医療の力に。

メディメッセージ

静岡県では、県医師会や医療機器メーカー、歯科医師・薬剤師・看護師等の様々な医療関係団体、大学、消防局、教育委員会等が協力し、県民の皆さんと医療従事者とが交流するイベント「メディメッセージ」を開催しています。

将来の地域医療を担う子供たちに、医療の魅力を感じてもらうことを目的として、新たな技術や医療の取組の実演、医師のトーカライブや医療技術の体験を実施しました。

静岡県は今後も県内の医療機関や関係団体と力を合わせて未来の担い手作りの支援を行います。

主催

メディメッセージ2022実行委員会(一般社団法人静岡県医師会、公益財団法人ふじのくに医療城下町推進機構ファルマバレーセンター、協和医科器械株式会社、株式会社アルバース、静岡県)



＼静岡県で働く女性医師のみなさんを応援します／ ふじのくに女性医師支援センター

医師全体の中で女性医師割合は20%を超え、更に若い世代での女性医師は30%を超えるようになっています。そのような中で、結婚や出産・育児といったライフイベントが重なる時期にキャリアを積んでいかなければいけない若手医師が大学病院をはじめ、医療機関にはたくさんいます。近年では子育てに積極的に参加する男性医師も増加し、女性医師と同様に家庭と仕事の両立について悩まれる方も少なくありません。

静岡県では仕事と家庭の両立と自分のキャリアを積んでいきたい医師のお手伝いするために、「ふじのくに女性医師支援センター」を設置しています。センターでは浜松医大の医師である専任のコーディネーターを配置し、大学各診療科・県内医療機関と連携しながら医師としてキャリアを形成し、地域で活躍できるよう、復職に必要な子育て情報やキャリア形成についての相談・情報提供、県外から転居してくる医師も静岡県の医療機関で活躍できるようサポートを行っています。

2022年10月に開催したロールモデル講演会では、医師のご夫婦による家庭と仕事の両立や、介護・育児のダブルケアと仕事の両立、出産・育児に伴うキャリアに関する悩みや苦労とその乗り越え方等、医師が働き続けるための工夫について、ご自身の体験やライフスタイルを基に講演いただきました。



〈2022年10月21日ロールモデル講演会〉

お問合せ ふじのくに女性医師支援センター（浜松医科大学医学部附属病院 医師トータルサポートセンター）

📞 053-435-2380

✉ dr-info@hama-med.ac.jp

ホームページは
こちらから→



SNSも毎週更新中！

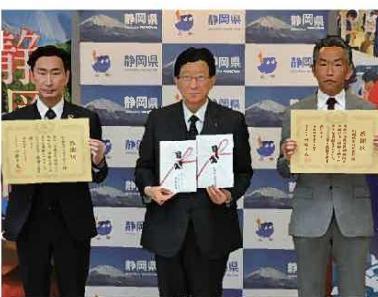


Facebook

Instagram

寄附による医師確保支援

静岡県は株式会社ファミリーマート、松岡紙業株式会社(富士市)と医師確保支援に向けた協定を締結し、静岡県医学修学研修資金貸与事業への継続的な寄附を受けており、2022年3月に、第3回の寄附贈呈式が行われ、川勝知事から感謝状を贈呈しました。



ファミリーマート店舗に設置した古紙
回収ボックスから回収された古紙の売却益等の
一部が両社により静岡県に寄附され、
医師確保に活用されます。

古紙からはじまる未来の医療

紙と医 カミカラドクター

FamilyMart 松岡紙業株式会社

医師をこころざしてから県内で活躍するまでをサポート

ふじのくに地域医療支援センター

本部(県庁)・支部(東部・中部・西部各保健所)



メールマガジンの配信

県内の研修病院の紹介など、今後の勤務や
研修に役立つ本県の医療に関する情報を2ヶ月に3回のペースでお届けします。
最新の情報を配信しています！

●配信内容

- ・医師不足地域を支える医師のインタビュー記事
- ・ふじのくに次世代医師リクルーターからのメッセージ
- ・イベントのお知らせ
(夏季セミナー、病院合同説明会、こころざし育成セミナー等)
- ・臨床研修病院紹介ページ
- ・関係団体主催イベント告知(自治医科大学)など

この機会にぜひ御登録ください。
メールマガジン登録フォーム



医師不足地域を支える医師



伊豆赤十字病院
院長
吉田 剛 医師

医師をこころざしきっかけを教えてください。

吉田 剛
伊豆赤十字病院
院長
吉田 剛 医師



ふじのくに地域医療支援センター

本部 TEL:054-221-2868 E-mail:chiikiiryou@pref.shizuoka.lg.jp



病院見学バスツアー

春休み期間中に、東部・中部・西部の各支部で、
1日で複数の病院を見学できる
バスツアーを実施しています。
先輩医師とお話しできる
チャンスです！



参加者の声

- ・個人で見学の申込みをする際のきっかけとして有意義だった
- ・研修担当の医師の話を直接聞くことができ、研修病院を選ぶ参考になった

ふじのくに地域医療支援センター 支部連絡先

東部支部 TEL:055-920-2109 E-mail:kftoubu-iryou@pref.shizuoka.lg.jp
中部支部 TEL:054-644-9273 E-mail:kfchuubu-iryou@pref.shizuoka.lg.jp
西部支部 TEL:0538-37-2550 E-mail:kfseibu-iryou@pref.shizuoka.lg.jp

静岡県はどんなところ?

富国有徳の

「美しい“ふじのくに”づくり

本県は、温暖な気候と豊かな自然や、多彩で高品質な農産物をはじめ、魅力あふれるものを数多く有しています。ぜひ、富国有徳の理想郷“ふじのくに”静岡県でその魅力に触れてください。

富国有徳の理想郷 “ふじのくに”目指す姿

- 「学んでよし 働いてよし」
- 「住んでよし 訪れてよし」
- 「生まれてよし 老いてよし」
- 「生んでよし 育てよし」

“ふじのくに”的経済基盤

 人口
(R3.10.1)

360万8千人

全国
10位



県内総生産
(R元年度)

17兆8,662億円

全国
10位



製造品出荷額等
(R2.6.1)

17兆1,540億円

全国
3位



1人当たり県民所得
(H30年度)

343万円

全国
4位

産業



富士山麓先端健康産業集積(ファルマバレー)プロジェクトにより、関連産業の集積が進み、医療機器生産額は13年連続日本一です。

自然



世界文化遺産の富士山や、「世界で最も美しい湾クラブ」に加盟する駿河湾など、豊かな自然に囲まれています。

スポーツ



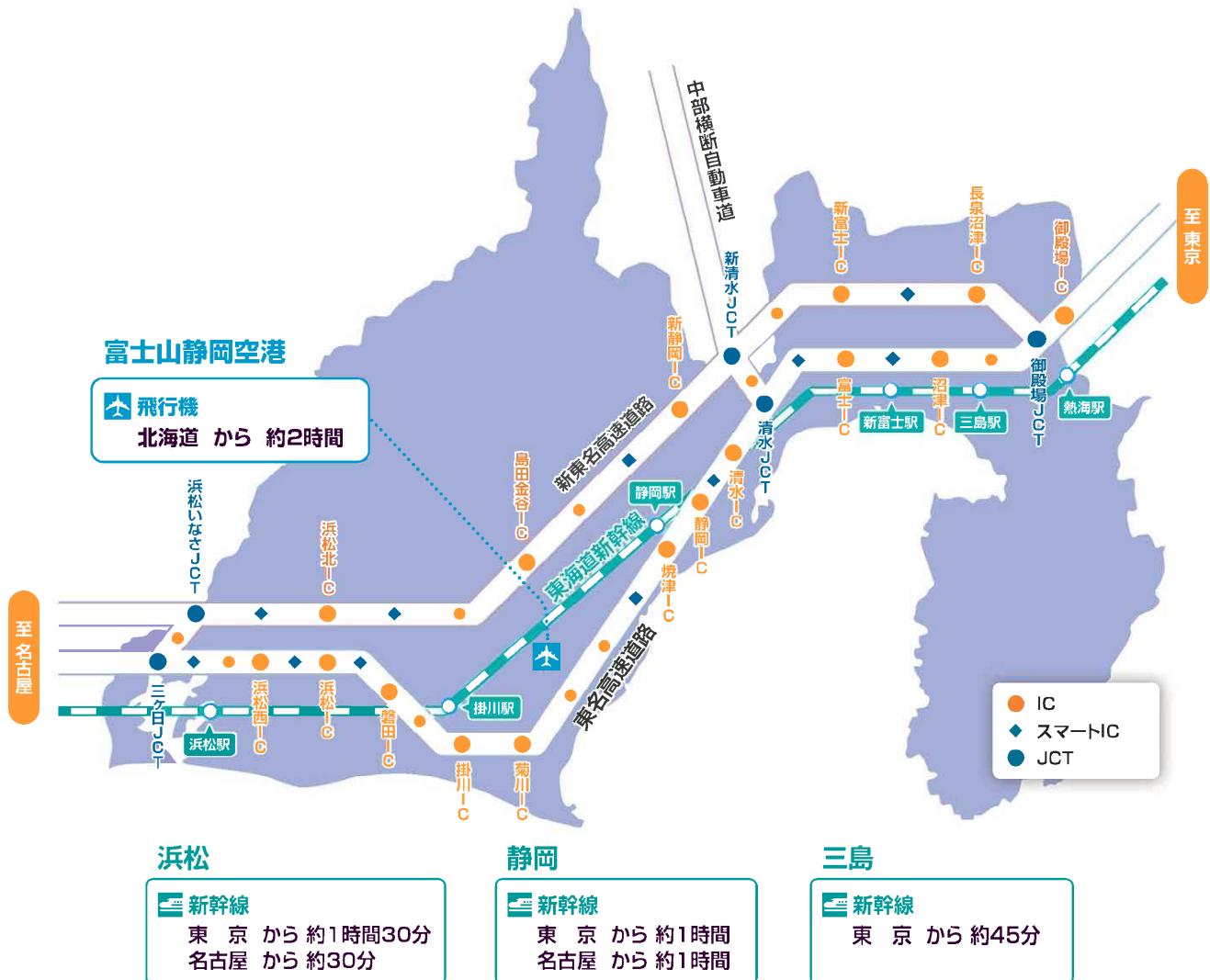
©PHOTO KISHIMOTO

東京2020 オリンピック・パラリンピック自転車競技の会場となった「伊豆ペロドローム」では、「2022ジャパントラックカップ」が開催されるなど“レガシー”として活用されています。

特産品



日本一の生産量を誇るお茶をはじめ、温暖な気候の下で数多くの特産品を生産しています。



ふじのくに地域医療支援センター

事務局

所在地：〒420-8601 静岡市葵区追手町9-6
静岡県健康福祉部 地域医療課 内

TEL : 054-221-2868

E-MAIL : chiikiiryou@pref.shizuoka.lg.jp

医師就労等相談窓口

浜松医科大学

所在地：〒431-3192 浜松市東区半田山1丁目20-1
浜松医科大学医学部附属病院 卒後教育センター内
TEL : 053-435-2873
E-MAIL : tiikiiryousienn@hama-med.ac.jp

静岡社会健康医学大学院大学

所在地：〒420-0881 静岡市葵区北安東4-27-2
静岡社会健康医学大学院大学 医師配置連携室内
TEL : 054-295-5419
E-MAIL : vmcfujinokuni@s-sph.ac.jp



ふじのくに地域医療支援センター



医学修学研修資金の募集情報、
医師のメッセージ、病院合同説明会、
バヌツアーナなど

本冊子はインターネット
からもご覧いただけます。

